禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

B84

「中央職業能力開発協会編」

令和７年度 技能検定
２級 表装 学科試験問題
(表具作業)

1. 試験時間　1時間40分
2. 問題数　50題(A群25題、B群25題)
3. 注意事項
   (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2) 答案用紙(真偽法と多肢択一法の併用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。問題はA群(真偽法)とB群(多肢択一法)とに分かれています。
   (4) 試験開始の合図で始めてください。
   (5) 解答の方法(真偽法と多肢択一法の併用)は次のとおりです。
      イ. A群の問題(真偽法)は、一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ. B群の問題(多肢択一法)は、正解と思うものを一つだけ選んで、解答してください。二つ以上に解答した場合は誤答となります。
      ハ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ニ. 答案用紙の解答欄は、A群の問題とB群の問題とでは異なります。所定の解答欄に、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄はA群は50題まで、B群は25題まで解答できるようになっています。
   (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

［A群（真偽法）］

1　ペイント塗装下地の寒冷紗張りは、壁装作業でも行われる。

2　戸襖は、和室と洋室の間仕切りに使用されることもある。

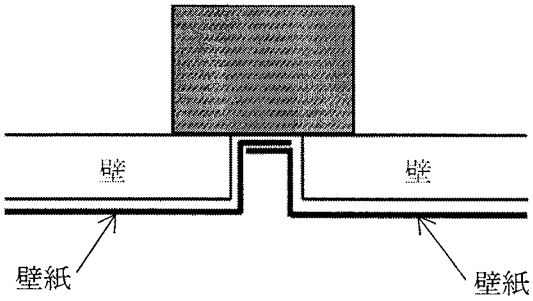
3　糊刷毛は、作業終了後、よく洗って日向に干すとよい。

4　織物の裁断には、裁ち包丁よりもカッターナイフの方が適している。

5　踏込み床は、床框を用いずに床板と畳面を同じ高さにした床の間である。

6　膠は、合成樹脂系接着剤には含まれない。

7　下記断面図に示す壁紙の張り方は、目透かし目地張りである。



8　日本産業規格(JIS)によれば、色知覚の三属性とは、色相、明度及び彩度のことをいう。

9　幅木とは、壁と床の見切りとして取り付けられる板のことをいう。

10　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、下図は、出入口一般を表す平面表示記号である。



11　建築基準法関係法令によれば、厚さが9.5mmのせっこうボードは、不燃材料である。

12　室内で揮発性の溶剤を使用する作業は、窓を閉め切って行う方がよい。

13　絵絹とは、日本画や書をかくための平織の絹のことをいう。

14　利休屏風は、本間屏風よりも寸法が大きい。

15　屏風の縁の断面形状の一つに、面取りがある。

16　表装裂地は、一般に、縮みを入れた方がよい。

［A群（真偽法）］

17　拓本を裏打ちする場合には、しわが無くなるまで十分にのばす必要がある。

18　屏風のおぜ張りは、縁を取り付けてから行う。

19　屏風の紙つがいには、一般に、上張りの厚さ程度の緩みをもたせるとよい。

20　引違い襖の現場寸法取りで、内法高さを測る場合、敷居天端から鴨居下端までの寸法を測るとよい。

21　襖の下張りにおける胴張り(ベタ張り)では、用紙の全面に糊を付ける方がよい。

22　打込み鐶は、掛軸を幅方向に3等分した位置に付けるとよい。

23　掛軸の軸棒に杉材を使用すると、しみが出やすい。

24　表具の防虫剤には、しょうのうを使用するとよい。

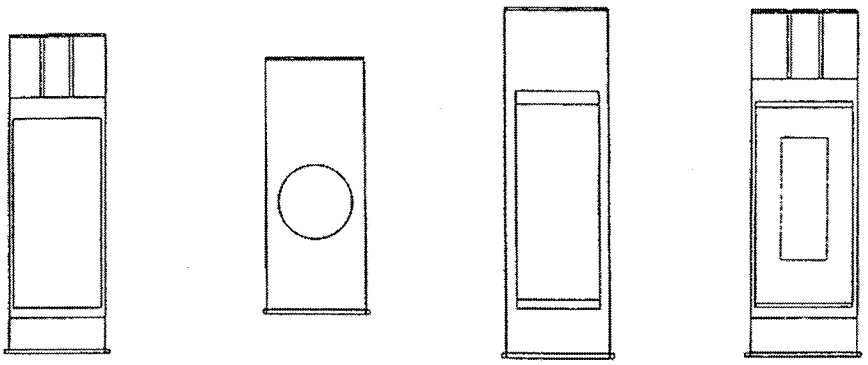
25　掛軸に軽い折れがついた場合、裏ずりをして、掛けておくとよい。

［B群（多肢択一法）］

1　屏風を用いる目的として、適切でないものはどれか。

イ　儀式用
ロ　間仕切り用
ハ　防火用
ニ　防寒用

2　下図に示す掛軸の様式のうち、くりぬき仕立はどれか。



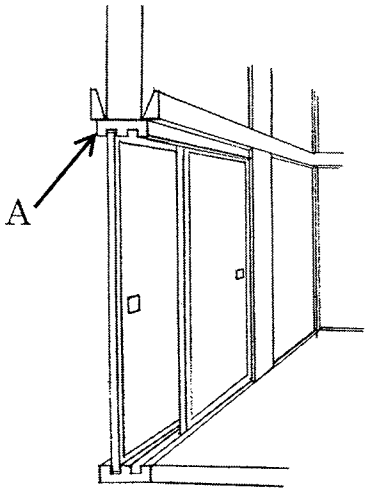
イ　　ロ　　ハ　　ニ

3　次のうち、最も目の粗いサンドペーパーはどれか。

イ　80番
ロ　120番
ハ　150番
ニ　180番

4　下図における部材Aの名称として、適切なものはどれか。

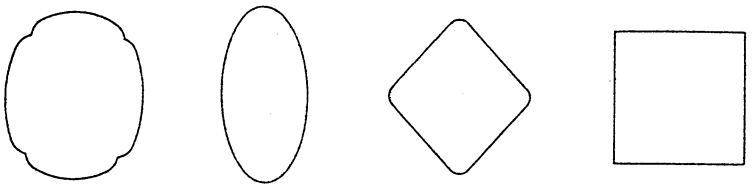
イ　小壁
ロ　敷居
ハ　長押
ニ　鴨居



［B群（多肢択一法）］

5　喰い裂きに適していない紙はどれか。
　イ　石州紙
　ロ　細川紙
　ハ　茶ちり紙
　ニ　クラフト紙

6　下図に示す襖（ふすま）の引き手の形状のうち、木瓜（もっこ）はどれか。



イ　ロ　ハ　ニ

7　次のうち、仏表装における掛軸の紐（ひも）の色として、最も適しているものはどれか。
　イ　白茶
　ロ　三色
　ハ　紫
　ニ　金茶

8　寒色はどれか。
　イ　青色
　ロ　赤色
　ハ　橙（だいだい）色
　ニ　黄色

9　日本産業規格(JIS)によれば、直径を表す寸法補助記号はどれか。
　イ　R
　ロ　φ
　ハ　t
　ニ　□

10　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。
　建築基準法関係法令によれば、居室の天井の高さは、(　　)m以上とされている。
　イ　1.0
　ロ　1.3
　ハ　1.7
　ニ　2.1

［B群（多肢択一法）］

11　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

労働安全衛生法関係法令によれば、移動はしごは、幅(　　)cm以上のものでなければ使用してはならないとされている。

イ　15
ロ　30
ハ　45
ニ　60

12　次の鳥の子紙の種類において、パルプの量が最も多いものはどれか。

イ　1号紙
ロ　2号紙
ハ　3号紙
ニ　4号紙

13　襖縁（ふすまぶち）の名称として、適切でないものはどれか。

イ　どぶ
ロ　増（ます）
ハ　定木
ニ　山丸

14　利休屏風（びょうぶ）の曲数として、適切なものはどれか。

イ　二枚折り
ロ　三枚折り
ハ　四枚折り
ニ　六枚折り

15　上裏打(総裏打)の場合の上巻絹（うわまきぎぬ）と宇陀（うだ）紙との継ぎ合わせ方として、適切なものはどれか。

イ　宇陀紙を喰い裂きにして、上巻絹を上に重ねる。
ロ　宇陀紙を裁断して、上巻絹の上に重ねる。
ハ　上巻絹を裁断して、宇陀紙の上に重ねる。
ニ　宇陀紙を裁断して、上巻絹の小口と突付けにする。

16　大和仕立の風帯を作るときの表幅と裏幅の差として、適切なものはどれか。

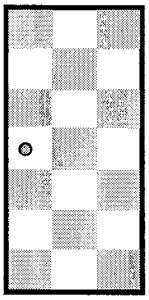
イ　5厘(約1.5mm)
ロ　1分5厘(約4.5mm)
ハ　2分5厘(約7.5mm)
ニ　3分(約9mm)

［B群（多肢択一法)］

17 襖の下張りにおいて、胴張り(ベタ張り)を行うときの作業の順序として、適切なものはどれか。
イ 蓑張りの後
ロ 袋張り(うけ張り)の後
ハ 骨しばりの後
ニ 上張りの後

18 次の下張り作業のうち、最も濃い糊を使用するものはどれか。
イ 蓑張り
ロ 袋張り(うけ張り)
ハ 胴張り(ベタ張り)
ニ 骨しばり

19 下図の襖の表張りの模様として、適切なものはどれか。
イ 袖模様
ロ 帯模様
ハ 総模様
ニ 腰模様



20 「あいはぎ(あいへぎ)」に関する記述として、適切なものはどれか。
イ 1枚の紙を2枚に剥ぐことをいう。
ロ 2枚の紙を1枚に貼り合わせることをいう。
ハ 3枚の紙を1枚に貼り合わせることをいう。
ニ 4枚の紙を1枚に貼り合わせることをいう。

21 絹本の裏打ち処理方法として、適切なものはどれか。
イ 色止めしてから、3～4回程度刷毛で水を引く。
ロ 大きなバットに水を入れ、平らにして水に漬けるとよい。
ハ 縮み入れは、注意しながら1回行えばよい。
ニ 紙本と同じく、刷毛で水を引く必要がない。

22 掛軸において薄美濃紙を用いる作業はどれか。
イ 肌裏打
ロ 中裏打
ハ 上裏打(総裏打)
ニ 増裏打

［B群（多肢択一法）］

23　次のうち、一般的な掛軸の保存方法として、最も適切なものはどれか。

イ　桐箱に入れてあれば、どこに置いてもよい。

ロ　桐箱に入れ、地袋に入れて置くとよい。

ハ　桐箱に入れ、天袋に入れて置くとよい。

ニ　桐箱に入れ、天井裏に入れて置くとよい。

24　掛軸の取扱いに関する記述として、適切でないものはどれか。

イ　掛け外し、巻収め等は、無言で行うこと。

ロ　折れを出すような取扱いは、しないこと。

ハ　風帯は、折りたたんでから巻くこと。

ニ　巻緒（まきお）は、固く締めて巻くこと。

25　袋張り(うけ張り)のこげつきを直す方法として、適切なものはどれか。

イ　水を引く。

ロ　星突（ほしつ）きの先で持ち上げる。

ハ　切れ目を入れる。

ニ　破いて切り取る。